

6、132、0

(包紙)

元和三年より元禄九年迄竹嶋渡海之砌鉄炮数

拾挺所持之所嶋渡御制禁被仰出ニ付当

御城<sup>江</sup>差出御宝庫入ニ相成候趣旧記ニ有之処此度御取調

之上竹嶋筒七挺入一箱御自分手より御返シ被仰付旨御老役

熊沢環様より御書ヲ以被仰渡、右鉄炮七挺難有請取申上候

御書附入 明治二年巳十一月九日 勝廣

付り 御自分御上<sup>江</sup>御請御札之義相伺候上急々

御飛脚便有之趣<sup>ニ而</sup>御老役仮職中村貢人様充ニして

差出御披露状案詞在中

又市政御役筋へ右竹嶋筒御返之分受取申上候事

6、132、1、0

「御書附」

6、132、1、1

大谷九之平

其方先祖往昔竹嶋

渡海致し候節相用候

旨を以小銃七挺先年

亡父新九郎より献上致し

御武庫入ニ相成居候處

此度奉願趣有之尤之

厚意ニ付願之通り

御返し被遣候、全く

先祖之英功相備り

居候重器ニ候得<sup>者</sup>永く

家宝ニ致し子孫<sup>江</sup>持

伝へ可申旨被

仰出候